ハルケギニア魔法消滅！　アンチ一筋

がろうでん

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
ハルケギニア魔法消滅！　アンチ一筋

【Ｎコード】
Ｎ８７９３Ｔ

【作者名】
がろうでん

【あらすじ】
才人の代わりにオリ主が原作破壊。ゼロ魔の社会体制気に食わなかったんだよね。貴族の力の源”魔”を断つことによってハルケギニアは、どうなていくのだろうか？
これは、オリ主が召喚時に原作をぶち壊します。

死んだら驚いた

俺は、爺さんを助けようとして死んだ。道を歩いていると横断歩道で赤信号になっても歩いてる爺さんが車に轢かれそうになり猛ダッシュで駆けつけたら！！！？爺さん向こう側へと瞬間移動しちゃった！

爺さんのかわりに車に跳ね飛ばされて死亡した俺。

神殿らしき建物が見えるのでそこへ行った。中から羽が生えた人が現れて！天使じゃねえか！

「主がお待ちです。こちらへどうぞ」

中に通されると交通事故で助けようとした爺さんが玉座へと座っていた。

「すまないことをしてしまった。ワシが忍びで地上を探索しようとしたときに予定にない事象に合い、お主は肉体が消滅した」

「あなたは、どちらさまで？ここは、どこですか？」

「ここは天界だ！そしてワシは天界の主、人間からは”神”と呼ばれる存在である」

「・・・・・・・！？！わかりました！これも運命でしょうね。俺の行先は？」

「実はじゃな！ゼロの世界へ転生を頼む」

「ゼロ魔ですか！」

「なんだったら王侯貴族に転生かの？」

「俺は、平賀才人のかわりのオリ主に転生させてください。あそこは、死亡フラグ満載なので特典能力の追加をお願いします」

「特典か！いいぞ」

1、地球とハルケギニアを行き来できる能力。建物や土地などの持ち運びができる

2、一世界の”魔”を消滅することができる。２０００年前イエスキリストと呼ばれる男が、地球の魔法・魔術消滅した時と同じ能力。

3、ハルケギニアのみ通用できる無限の黄金律

4、「史上最強の弟子」の上位マスタークラスの身体能力と地球世界の武道武術格闘技をマスター。

5、あらゆる病や怪我を完治することのできる能力。

6、「とある魔」の一方さんのレベル１０のカウンター能力。

7、ＩＱ３００の頭脳

「これらが可能ですか？」

「うむ！イエスキリストか！それはワシじゃ！」

「え！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！マジっすか！」

「実はじゃな！ゴルゴダの丘で処刑された３日後に蘇生して、日本に渡り大和の国で”魔法消滅”をしたんだ。そのあとみちのくの地、十和田湖の近くで家族を造り余生をそこで過ごしたんだ」

キリスト日本渡来伝説！

「やっぱりあの説は、本当だったんだ。イエスキリストを名乗る男は、神様そのものだったんですね」

「ワシは、肉体が消滅して天界で”神”の座についたってわけじゃ」

「それで”魔法消滅”の能力を頂けるってことは、ゼロ魔の原作破壊も可能ってことですね」

「無論、ＯＫじゃ！友人のブリミルはエルフ族の娘に刺された奴じゃが、奴が残した魔法を悪用する奴らがハルケギニアを支配しよったと酒の席で嘆きよったんじゃ」

「人間などの生命体は、亡くなってその者が”神”として祀られると”神”としての資格が身に付くんじゃ。悪魔としては”悪魔”じゃがの。ブリミルは魔族の血を引いているにも関わらず”神”として祀られているのじゃ」

「じゃ人間社会の祀り方、死者への心しだいで神にも悪魔にもあるってことですね」

「そうじゃ。ま！そういうわけで、レッツゴー！」

俺は、爺さんである神の手のひらから発せられた光によって転生した。

召喚準備、学歴だけでもきちんとしたい

生まれて5歳になり通園中の幼稚園で高熱を発した。救急車で病院に運ばれてベッドの上で目覚めた。

記憶も前世の自分と”神”とのやり取りを思い出した。

1日で退院して数日がたった。名前は、萩生　神也。カミヤって呼んでくれ。

原作は、高校2、3年の17歳で召喚された。あいつは、勉強嫌いのバカで学歴など無用と思っているが、世の中は学歴社会なんだよね。中学退学のやつでベンチャー企業を立ち上げて活躍している奴もいるって認めるよ。でも、そんなに世の中甘くはねえ。

カミヤは、だれもいない空き地で能力の確認をした。

ハルケギニアのイメージをして転移した。転移したら魔法学院の広場じゃねえか！いろんな髪の色のマンと着用しているクソ貴族共の目にとまった。でもすぐに地球へと戻った。

「見つかってしまった。ま！いいか！」

身体能力・格闘技能力はマスタークラス。でもどこかの空手道場へ入門して技を磨こう。

病や怪我は、病気がちの野良の子猫に手をかざしてヒーリングすると完治して元気になった。カウンター能力は、自由自在に発動できる。

ＩＱ３００の能力は、苦手な英語を数十分でマスターできた。

日本の教育制度は、いくら頭が良くても飛び級ができない。アメリカは飛び級制度があり、それだから世界ＮＯ．１の座に君臨している。たしかに弊害もあるけどゼロ魔へ行くんだったらそんなクソみたいなこと言ってられない。原作才人は、絶対に苦労するぜ。

カミヤは、小学校入学でＩＱ３００と判断された。両親にアメリカへ行って大学へ行きたいと言った。普通の家庭なら金がないため拒否されるのだが、父親は、大企業の代表取締役でアメリカに支社を持つ社長さん。
そのため、アメリカへ量子物理学と経営学を学ぶためマサチューセッツ工科大学へ留学したカミヤであった。ケンブリッジの支社長のお宅へ居候しながら近くの大学へ通っていた。

親父の会社は、日本に本社が一つとケンブリッジとロス、シカゴに支社がある。

１０歳で卒業して日本へ帰国。普通道理に近くの小学校へ編入。学校一頭はいいし運動神経抜群、っていうよりもマスタークラス。

今のカミヤには、アメリカの大学卒業の学歴がある。わざわざまた小学校へ入りなおしたわけは、周りの友達と同化していこうとのこと。たしかにカミヤはチートな人間だ！

夕方時、高校３年になりふと歩いていると鏡が現れた。

「きやがったか！さてクソ共を地獄に陥れるに行くか」

カミヤは鏡に飛び込んで行った。

契約返し！！！そして魔法消滅、ここからがてめえらの地獄の始まりだ！

「あんた、誰？」

「ゼロが平民を召喚したぞ」

「おいゼロ！いくらでその平民を雇ったんだ」

あたりには、アニメゼロ魔の魔法学院の制服を着たクソどもがいる。

そして目の前には！ピンク頭のペッチャン子だ！

カミヤは、カウンターを発動させた。

（さあ！キスしてみろ）

カミヤは、膝まづいてこう言った。

「姫のために御使いに参りました」

「いい心使いだわ！あんた、感謝しなさいよね。貴族にこんなことされるなんて一生ないんだから」

「我が名はルイズ・フランソワーズ・ル・ブラン・ド・ラ・ヴァリエール。

五つの力を司るペンタゴン。この者に祝福を与え、我の使い魔となせ」

朗々と呪文を唱え始めた。
杖をカミヤの頭の上に置いた。そして、ゆっくりとルイズは自分の唇をカミヤの唇へ重ね合わせる。
ルイズは、カミヤをキスし終わると突然右手で左手を抑えた。
「痛い・・・い！！・・・・た・・・・・！」
ルイズはあまりの体の熱さから思わず転げ回り、左手に激しい痛みを感じた。しばらくすると痛みがなくなった左手の甲に傷がついてないのか、甲を抑えていた右手をゆっくりと離そうとすると、そこには文字が刻まれていた・・・　・・・・
コルベールはあまりの事態に立ち竦むことしかできなかった。
ルイズの身に起こっていることは、通常契約を受けた使い魔に起こることであるはずなのに、主であるルイズの身に起きているのだ。
（よし！反射成功。次は、これだ！）
その隙にカミヤは、意識を極限まで高めてこの惑星世界まで意識を広めた。体が黄金色に光り、ハルケギニアを含めた惑星世界全体を覆った。
「天清浄　地清浄　内外清浄　六根清浄と　祓給う
天清浄とは　天の七曜九曜　二十八宿を清め
地清浄とは　地の神三十六神を　清め

内外清浄とは　家内三寳大荒神を　清め

六根清浄とは　其身其體の穢れを

祓給　清め給ふ事の由を

八百万の神等　諸共に

小男鹿の　八の御耳を　振立て聞し食と申す

　天地一切清浄祓！！！！！！！　魔法消滅！！！！！！！！！！！！！！」

惑星世界全体が光ったと思うと光が霧散した。

「何なんだ？」

「先住魔法か？」

「エルフか？」

まわりの生徒の使い魔達、幻獣などは一目散に逃亡を開始した。

「わあ！ラッキーが・・・！」

「使い魔達が逃げていく」

「私のルルが・・・・？！」

コルベールは、全生徒に教室に戻るように言った。ルイズ以外の貴族がフライを使おうとしたときに魔法が発動しない。

「これは・・・！」

カミヤは、大声で笑って言った。

「ようこそ！絶望の地獄へ！もうおめえらクソどもは魔法が一生使えません。それはこの俺様が魔法を消滅してやったのさ」

一人の激高した生徒が杖を振りかざしても魔法が発動しない。

「エアー・ハンマー・・・・！？出ない？？？？？」

「バカだろおめえ！よ～く聞け！！！おめえらクソ貴族共の絶望は今、ここよりはじまる。俺が全世界の魔法を消滅させたのさ。貴様らの運命は死あるのみ」

ルイズは、近寄って杖を向けていた・

「あんた！私に何をしたの？答えなさい！」

「フン！超能力のカウンターだ！てめえが刻もうとした隷属の印を帰したのさ！もう杖を向けても爆発は発生しないぜ」

「君は、一体何者だ？」

「あんたがコルベールか！ダングルテールの虐殺者サン！」

顔を赤くなったコルベールは杖を向けて魔法の呪文を唱えた。しかし魔法は発動しなかった。

「それをどこで？」

「とりあえず学院長室まで御同行願おうか！すべてを話すさ！原作台本破壊のために！ハルケギニアの貴族体制の崩壊のために！ははははははははははは」

ネタばらし！！！でも地球へ一時帰宅

トリステイン魔法学院長室

オールド・オスマン、ロングビルことマチルダ、カミヤ、ルイズ、コルベールがいる。

「ワシは「ああ！知っている。あんたがオールド・オスマンだな。俺の名前は、カミヤでいい」・・！最近若い者は・・・話の腰を・・」

「ちょっとあんたオールド・オスマンになんてことを！」

「うるせい！」

「まあ！よいよい！ところで色々あったようじゃが」

カミヤは、ルイズの左手をもって上げた。

「まずはだな！この場合どうなる？ルイズ嬢の進級は？」

「どうもこうもないわっ！　使い魔のあんたにルーン刻もうとしたら跳ね返ってきたのよ！　どうなってんのよあんた！」

「と！言うわけでこの結果はどうなんだ？」

「ふむ」

「これは！見慣れぬルーンじゃの・・・・・」

「で！どうなんだ？」

コルベールは、ルイズの左手の甲のルーンをスケッチした。

「その左手の甲のルーンの事じゃが、これはわし等で調べてみる。解除の方法も一緒にの」

「・・・・・ありがとうございます」

「て言うか貴様ら魔法使えんのかよ？俺は、この惑星世界の全魔法・魔術を消滅したんだ。そこにある遠見の鏡が使えないだろ！もうお前らメイジは、魔法が一切使えません。はい！おしまい・・ってルイズの進級は？」

「う～ん、そうじゃのミス・ヴァリエール」

「はい・・」

「進級、おめでとう」

「い、いいんですか？　使い魔じゃなくて、私に出てますけど、ルーン！」

カミヤは、進級の結果を聞くとこう言い残して転移した。

「よかったじゃん！じゃ俺帰るわ！さよ！おなら！」

そこには、もうカミヤの姿はなかった。

「あ～！逃げた！」

「ミス・ヴァリエール！」

するとカミヤが現れ

「なんちゃって！！！まだお前らに事の真相を話してないし」

カミヤは、自分が前世においてチート能力をもらって転生したこと、この世界が「ゼロの使い魔」という物語の中にいること。

コルベールにダングルテールで生き残った少女アニエスが復讐の為に命を狙っていることと、アニエスをかばった女性が現在の教皇の母親であり、コルベール自身が炎のルビーを持っているのを話した。

ルイズには、自身が虚無でありトリステイン王家の水のルビーと始祖の祈祷書がないと覚醒しないこと。ワルドがレコン・キスタの一員であることなどを言った。

「嘘・・・嘘よ！！ワルド様がそんな・・・・！」

ルイズがパニクっている。なぜワルドが母親をうっかりと自分が手にかけて聖地に固執したわけを話した。

「もう！おわかりだろうか？ハルケギニアには、ルイズ嬢を含めて４人の虚無の使い手がいる。まずは、ロマリアの教皇エイジス３２世、ガリア王国国王ジョゼフ１世、トリステイン王国ラ・ヴァリエール公爵御息女のルイズ、アルビオン王国のモード大公の忘れ形見ティファニア・オブ・モードだ。モード大公事件の黒幕は、レコン・

キスタのオリバー・クロムウェルだ。あいつが裏で糸を引きアルビオンを内戦状態にしたのさ」

（え！ティファが！？・・・・・・）

カミヤは、近々ハルケギニアの風石の暴走の件を話した。そして、魔法が消滅したせいでその心配はいらないと言った。

「あんた！今すぐに魔法をもとに戻しなさいよ」

「おい！ルイズ、水のルビーと始祖の祈祷書をすんなりと貸してもらえるのか？よ～く考えてみろ」

「え？！・・・・・・・・無理だわ・・・！」

「だろ！俺は、この世界の社会制度が大嫌いなんだ！だから魔法を消滅させた」

「貴族が嫌いなの？」

「当たり前じゃんかよ！俺は、魔法がない世界、身分がない世界、だれでも努力次第でいい地位につけるし金が稼げる世界、科学技術が発達した世界から召喚された」

カミヤは、リュックサックの中からノートパソコンを起動させ、「富士総合火力演習」「核兵器実験」「日本の街並み」「アメリカ陸軍演習」の動画を見せた。

「どうだ！俺の世界は魔法なしでここまで来たんだ」

コルベールは、目を輝かせている。わかる人には、わかるんだな！
あとの３人は顔を真っ青になっている。
カミヤは、オスマンから使い魔の件を頼まれた。
「金は？いくら出す」
「あんた、何たかっているのよ！」
「お金取るのか！」
「当たり前じゃんか！あ！コラ！タダ働きはごめんだね」
オスマンは、
「とりあえず１００エスキュー出そう」
「了解」
カミヤはルイズと一緒に部屋に行った。そして部屋のドアに「バカルイズの部屋」と書いた。
「何？その文字見かけないよねって落書きしないでよ」
「目印だ」
（ハルケに人間は、日本語わからないぜ！明日は学校が休みだからシエスタに会って文字を教えてもらおう！ギーシュとの決闘もあるし！シエスタに文字を教えてもらったら何人かに地球へ放置してい

こう）

部屋に入るとカミヤは、また明日おこしに来ると言いながら地球へ転移した。

「逃げた～！」

ギーシュをフルボッコ！！！魔法が使えない貴族なんざタダのゴミだ！！

ハルケギニアから転移したカミヤは、１００エスキューを「金を売ってください」の看板を見つけ１００エスキューを売りつけた。１エスキュー５万円で５００万円をゲットした。

あの店の親父、学生だと思って安く仕入れやがって１エスキュー１０万だろ！って５００万ゲットしたからいいや。

そして秋葉原の電気屋でＣＤラジカセと「ラジオ体操」のＣＤを購入した。

翌朝４時目が覚めて、ハルケギニアのルイズの部屋に転移した。

ＣＤラジカセのボリューム最大！

『新しい朝が来た　希望の朝だ　喜びに胸を開け　大空あおげ

ラジオの声に　健（すこ）やかな胸を　この香る風に　開けよ

それ　一　二　三

新しい朝のもと　輝く緑　さわやかに手足伸ばせ　土踏みしめよ

ラジオとともに　健やかな手足　この広い土に伸ばせよ

それ　一　二　三』

「うるさ〜い！！！」

「おっは！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

ルイズは、飛び起きた。貧相な体しやがって。

「あんた、誰？」

「貴族を滅ぼす神だ！！！！！！！！その名はカミヤ！！ゴッドマスター　カミヤだ！！！！！！ばいび〜！！！！！」

「なんだったの？」

ＣＤラジカセを止めたカミヤは、地球の自分の部屋に転移した。

そのあとキュルケなどの隣の女子生徒が怒鳴りこんでで来たのであった。カミヤの奴、なんというやがらせだろう。

日課の朝トレが終わったカミヤは、ハルケギニアの魔法学院へ転移して厨房へ向かっていった。今日は、高校が休み。高校卒業後には、親父の会社に就職するつもりである。アメリカの大学卒業資格もっているから心配いらない。年上の友人には、ＮＡＳＡやペンタゴンへ就職しているメンバーがいる。

しばらく歩いていると！いた！黒髪のメイドさんだ！

「あなた佐々木　武雄さんの御親族の方ですか？」

ちょっと警戒したメイドさん。

「私の曾御祖父ちゃんをなんで知っているんですか？」

「俺の名前はカミヤ。萩生　神也。カミヤって呼んでくれ。実は、ルイズっていうクソアホ貴族のクソ女に魔法で召喚される時に何もない空間ていうかそこで佐々木　武雄さんに会ったんだ！シエスタのことをよろしく頼むと！嫁にしてくれってな」

もちろん嘘である。

「え！曾御祖父ちゃんが！？まさかミス・ヴァリエールが召喚したといわれる！！！！！！」

「そうそう！それが俺だ！シエスタ！俺と結婚してくれ！武雄さんに頼まれたことではなく！君のことを一目で見て好きになった。俺の国、曾爺さんと同じ国に来て結婚して幸せになろう！」

そういうなりカミヤは膝まつきシエスタの左手を取って薬指に２００万で購入した高級ダイヤモンドが入った婚約指輪をはめた。

「え！こんなの受け取れないです」

「君のことが好きなんだ！」

おいおいいきなり告白かよ！直球型だねカミヤは！

「ねえ！それより厨房で飯を食いたいんだ！」

「こちらです」

厨房に案内されたカミヤは、シチューを食べた。

「うまい！！！まさに天下一！！！！！」

調理場で作業をしていたコックがやってきた。

「おめえか！貴族にさらわれて下僕にさせられた人間ってのは！」

「そうですよ！あんなゴミ人間、クソ貴族の従者なんかやってられっか。貴族なんかクソ・ゴミ・駄目虫の集まりだ！」

「坊主！貴族の悪口言うとはいい度胸だ！気に入った」

「俺、カミヤって言います」

「俺は、マルトーだ！よろしくな」

厨房で飯を食べた後、魔法学院の生徒の様子をみると何かに脅えている感じがしていた。魔法が使えないから不安なんだな。ここの非メイジの使用人たちは、貴族が魔法を使えないことに気づいてない

みたい。いつ気がつくのだろうか！

魔法学院の厨房で飯を食ったカミヤは一旦、地球へ転移した。

また、地球でも昼になりハルケギニアへ転移して「決闘」の場面を味わおうと魔法学院の中庭やらをウロウロしていた。

すると食堂で案の条、ギーシュがシエスタを責めているじゃないですか！

「おい！クソバラ貴族、そこまでにしとけ！オラ！！！」

「なんだね君は！その口のきき方は何だね貴族に向かって」

「俺の世界、地球世界は貴族なんていない世界なんだ！」

カミヤは、そばにあったグラスのワインをギーシュに吹っ掛けた。

よし怒れ！

ワインまみれになったギーシュは、杖を高く上げた。

「決闘だ！！！！」

シエスタは、逃げた！でも圧勝して嫁にしてやる。

ルイズからは、「死んじゃえ」って言われた。原作や2次作じゃル

イズは「やめろ」って言わなかった?!

ま!いいか!奴ら魔法使えないしフルボッコできるね。

おまけにギーシュは、強がり言っている。

「ここまで来たことをほめてやろう。君みたいな平民に魔法を使うと思うのか!男同士、素手で勝負だ!」

で!結果は、カミヤの圧勝だった。って言うより瞬殺だね。

カミヤは、開始合図早々、上段廻し蹴りでギーシュの顎を打ち砕いた。そのあとは、馬乗りになりこぶしの連打連打だった。

「オラ!オラ

！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ！オラ
！オラ！オラ！オラ！

オラ！！！！！！！！！

！！！！！！！！」

ギーシュの奴は、重体で顔面変形しているぜ！カミヤは、地球の樹海へギーシュを転移させて放置した。

ハルケギニアの魔法学院の広場へ戻ったカミヤは、ギャラリー達にこう言った。

「俺は、地球世界から貴様らクソ貴族を地獄へと突き落とすためにミス・ヴァリエールが召喚した魔王だ！平民にとっては救世主だ。昨日俺は、召喚され契約時にルイズにルーンを逆に刻みつけた。おまけにこの世界のありとあらゆる魔法をこの俺が消滅させたんだよ。おめえら昨日から魔法が使えないのはそのためだ！これだけは、言っておく！魔法が使えない貴族なんざタダのゴミだ！

はははははははははははは！！！！！！！！！！！！！！！！！！

これに不満あるのなら掛ってくるがいい」

カミヤは、拳で地面に一つのでかいクレーターを残した。周りの学院生徒は、唖然としてただ見守るしかなかった。後ろから杖を振る

生徒もいたが何も起らなかった。

ひび割れの始まり！！！これが地獄への入場券！！

カミヤが召喚されて魔法が使えなくなった貴族達。ギーシュは、決闘でボコられて行方不明。オスマンも魔法が使えない・マジックアイテムが作動しない状況で遠見の鏡が映らない。

決闘が終わったカミヤは、シエスタに「タルブへ迎えに行くから！」といい３缶の胡椒を渡して地球へ転移した。

ギーシュの行方不明は、有耶無耶となった。学院生徒の魔法が使えない皺寄せは当然ルイズにいった。

「おいゼロ！どうしてくれるんだ！てめえが召喚した平民のせいで魔法が使えなくなったじゃねえか！」

「そうよ！なんとかいいなさいよ！」

「どう責任を取ってくれるのよ」

魔法学院の教職員会議でも揉めた。

「この事態をどうするべきかです」

「ミス・ヴァリエールの使い魔は？」

「ミスタ・グラモンと共に行方不明になりました」

「われら貴族は、魔法が使えないと平民を支配できない・・・・」

会議では、この事態になんらかの決定的解決法が見つからなかった。そこで学院図書館で魔法を復活させる手段を見つけようとした案が取られた。

図書館の本は、大量にあるから生徒も動員した。教職員しか閲覧できない本も生徒が読むことが許可され、教師・生徒総動員で魔法を復活させる方法を探したが一週間経っても見つからなかった。

その間、シエスタはカミヤの言葉通りタルブへと帰って行った。

学院の非メイジの使用人たちは、貴族が魔法を使えないことに薄々気がついていたがなんせまだ地位があるし給金をもらっているのでそれ以上のアクションは取らなかった。

（冗談じゃないよ！魔法が使えないかったら仕事ができないし・・・！）ｂｙマチルダ

盗賊フーケも破壊の杖そっちのけで魔法復活の手段を探しているのであった。

地球　日本

一週間後、樹海を管轄している地元警察の自殺者などを探索するチームが、身元不明の金髪の外人らしき死体を見つけた。惨いことに目玉や内蔵などをきれいな形で繰りぬかれていた。どうやら臓器密売ブローカーの餌食になったと思われる。

ひび割れの始まり！！！！これが地獄への入場券！！（後書き）

魔法はハルケギニアではもう二度と復活しないでしょう。チーン

魔法消滅の影響！！！ハルケギニアは？

魔法が消滅してから2日目、ハルケギニア中の土魔法で製造し固定化のかけられた建物が崩壊したり半壊したりする出来事が起こった。それも王侯貴族の邸宅などである。

魔法学院も深夜、半壊して城壁も崩壊した。

主に建物の崩壊で貴族の人間に死傷者が続出した。

また、船は飛べずアルビオンまで飛行できない。ドラゴンも飛べないばかりか火を吹けない。アルビオンの浮遊大陸も徐々に落下していき一ヶ月後には、海面に着水する予定。

カミヤから放たれた魔法消滅の光によりハルケギニアを含めた惑星世界の魔法・呪術などは消滅した。精霊石も徐々に力を失っていく。

アルビオンでは、アンドバリの指輪の効力が消滅して貴族派から王党派に鞍替えする勢力が多数。その中でオリバー・クロムウェルは行方不明。レコン・キスタが瓦解する日も近い。

オーク鬼・コボルトなどの害獣は、怪力などの魔力を失い人の目に触れないようにしていた。でも後にカミヤをはじめとする地球人が地球世界から持ち込んだライフルやマシンガンなどの近代兵器の武器で絶滅させられるのであった。

トリステイン王宮では、魔法消滅に対処するべく緊急会議が開かれていた。その中にもオスマンは出席していた。

（ミス・ヴァリエールが召喚した使い魔が、魔法を消滅した張本人なんて言えんぞ！！）

「兎に角、我々貴族が平民には魔法が使えないことを悟らせるわけにはいかん」

「そうだ！その間にアカデミーなどの各機関で魔法を復活させる手段を見つけるように！」

「もし平民達に悟らされたら我々は、リンチ血祭りにさせられるぞ！」

「もうワシなんて不眠で頭が痛い」

するとアンリエッタが

「それじゃあこの国の全部の平民のみなさんをゲルマニアへ追い出したほうがいいんじゃないでしょか。そしてみなさん心配だったらトリステイン中の貴族を呼んで舞踏会を開きましょう」

（（（（（（（（こんな時にこのアマ！！！！！！！ぶっ殺したろか！！！！！！！！））））））））

会議では、「無礼討ち」を禁止したりする案も出た。主に貴族が平民を殺傷するときは魔法を使うからだ。魔法を使えないことが平民にばれると、逆襲されるし話が広まるからだ。おまけにトリステインの王領・貴族領の税率を一律４割にしようとの案もでた。それも魔法が復活するまでである。

魔法が使えない貴族など猫同然。貴族たちは、平民に対して魔法などの暴力を行使できないので何か粗相があったときは張ったりをかますか寛容な態度を見せたりしていた。メッキがはがれるのは、時間の問題だろう。

ロマリア

「弱りましたね。魔法が使えないし始祖の鏡に何も映らないですね」

「わが国でも神官に対する平民の嫌悪感がありますから。なんとか処置しないと」

「魔法を復活させることが急務ですね」

「それまでは、平民に対して寛容な政策を取るべきですね」

「神官総出で書物を調べましょう」

ガリア

「ジョゼフ様、マジックアイテムが使用できません」

「ふふふふ！魔法が使えないと報告があるぞ」

「何としてでも魔法の復活を優先しなければいけません」

「よいよい、時に任せろ」

「は！」

・・・・・・・・・・・・・

「シャルルよ魔法が無くなった世界でお前はどう思うのか？」

天才が使い魔！！！さあアルビオンを脱出だ！！

カミヤは、ギーシュとの決闘場面の後、シエスタに再会を誓い転移した。

そして一カ月・・・・

ＮＥＴ情報検索しているカミヤは、アメリカ在学中の年上の友人トニー・スタークのことを思い出した。巨大軍事企業スターク社の社長で、なんでも新型のアイアンマンの飛行中に行方不明となった。

（俺が召喚された日と同じ日か！マッハしすぎて燃え尽きたんじゃねえのか？心からの冥福を祈るよトニー・・・・・）

トニー・スタークは、カミヤとマサチューセッツ工科大学の首席を争った仲だ。よく大学内では日本のカミヤとアメリカのトニーと言われたほどだ。

ロマリア・トリステイン・ガリア・ゲルマニア・アルビオンの全ハルケギニア貴族メイジは、魔法消滅という事態に混乱していた。アルビオンでは、レコン・キスタは王党派に寝返りが出て多勢に無勢で瓦解。指輪の効力が消失したからだね。

全ハルケギニアでは、平民メイジが魔法を使えないとなり、飯食って寝れば魔力が戻るだろうとの見解となった。それを知っている非メイジも一時的なものだと思い、そのことには追求しなかった。

でも魔法学院では、授業そっちのけで教師・生徒の貴族メイジ総動員で魔法復活の方法を探したがみつからなかった。

「ゼロの使い魔のせいで俺たちはこんな目に・・・」

「なんでよ～！なんでルイズはあんなの呼んだのよ！」

「腹減った・・・！」

他の国でもいろんな書物を総動員で調べてみたが全然だめだった。非メイジ平民に貴族が魔法を消滅したと気付かれる日は刻々と迫っている。

結局、どの国も無礼討ちの禁止と税率４割が方針となった。でもメイジが魔法を使えないとわかると平民はどのような結果をもたらすのか！

アルビオン　ウェストウッド村

一人の男と１６歳の金髪の少女、１０歳未満の子供たちが荷造りして旅立とうとしている。

「トニーさんごめんなさい。私のせいであなたをこんな目にあわして・・・」

「いいんだよ、ティファ。君のせいじゃないよ！この地はみんなにとって危険だ」

「そうですね。でも姉さん心配するかしら」

「安全な地に定住したら姉さん宛てに手紙を書いたらいいんじゃないか！」

「そうですね！子供達やみんなの安全のために・・」

「アルビオンは、海面に着水したから海を渡ってトリステインのタルブへ行こう」

「はい」

（カミヤから勧められた本”ゼロの使い魔”読んどいてよかったぜ！しかも召喚主がティファではラッキーだな。使い魔の契約はしていないし、魔法が使えないハルケギニアか！どうなる事やら）

トニーの片手には、カバン型になったマーク５があった。

あのスターク社の社長トニーは、ティファに召喚されるのであった。

一か月過ぎた魔法学院のルイズの部屋。午前４時を回っているところです。

地球から転移したカミヤは、ＣＤラジカセと接続したスピーカーの

最大ボリュームを全開にして大音量
で音楽を流した。

『貴様の罪は俺が罰する
俺は地獄からの使者
貴様の尻を八つ裂きじゃ

恨みはらさでおくべきか
恨みはらさでおくべきか

貴様の尻をなめまわす
お前を地獄でまた殺す

左手に憎しみ　右手に狂気
永遠の極刑くれてやる

恨みはらさでおくべきか
恨みはらさでおくべきか

貴様の死すら死で塗りつぶす
俺は死神をも殺る悪魔
貴様の魂メッタ刺し

恨みはらさでおくべきか
恨みはらさでおくべきか

貴様の魂なめまわす
お前を地獄でまた殺す

左手にはらわた　右手に憎しみ

次なる極刑くれてやる
恨みはらさでおくべきか
恨みはらさでおくべきか』

ルイズは起きて枕をカミヤに向かって放り投げた。

「うるさああいーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー」

「よっす！！！！！」

「あんた何時だと思っているのよ！」

カミヤは、こう言って地球へ転移した。

「もう朝だぜ、バイビーさん！」

カミヤは気晴らしに一ヶ月間、週二〜三でルイズにこういった嫌がらせをしている。

その日は、キュルケとかが抗議に来るのであった。

タルブのゼロ戦！！！！！再会する二人の天才！！

召喚から一ヶ月後、カミヤはタルブへやってきた。

地球世界で駐車禁止の区域に放置されているベンツと一緒に魔法学院の門前へ転移した。当然、衛兵が門の前に立っていたんだけど絡んでくるので骨の二、三本へし折って半殺しにした。ついでに人相割れるとヤバいから両眼を潰しときました。

タルブはラ・ロシェールの近くなので、通りがかりの盗賊２０人を半殺しにして手足の骨を折りラ・ロシェールまでの道を聞いた。道聞いたら全員後頭部殴って殺したよ！生かしておくと治安が乱れるからさ！俺には家族がいるって戯言ほざいていた奴もいたんだけどカミヤにとっては下等な土人なんで殺しといた！

ベンツで時速１５０ｋｍで走行している。

また途中で盗賊が通せんぼするのでひき殺し、ベンツから降りて全員瞬殺した。こいつら全員メイジらしく刃物みたいなのは持ってなかった。この惑星世界には、警察もないし道路交通法なんてないから外道なんざ殺し放題だね。

ラ・ロシェールについたカミヤは食堂へ入り、商人風の男にタルブへの道を尋ねた。ワインのタルブは有名なブランドらしい。

街の中の様子をみてみると貴族風の人間はいたが顔の表情が不安にあふれていた。魔法が消滅してハッタリで平民に高圧な態度で接していることだろう。

やっとタルブへ到着。

村人にシエスタの実家を訪ねた。中からシエスタとシエスタの父親が出て来た。

「お待ちしていました、カミヤさん」

「君が爺様から娘の婿になってくれと言われた爺様と同じ故国の人間か？」

「そうです。名前を萩生　神也と申します」

二人に案内された応接間には、あのトニー・スタークがいた。他にも帽子をかぶっている乳神様と１０数人の子供たち。

トニーはカミヤに近寄って手を握った。

「トニーさんじゃないですか？」

「カミヤじゃないか・・・・・って！カミヤって英語が流暢だったっけ？」

「これって召喚の時にハルケギニアの言葉が理解できるらしいですね。俺達が無意識にしゃべった時にはハルケギニアの言葉をしゃべ

っているみたいです。おまけに違う言語の種族同志でも意思疎通できるらしいですね」

カミヤは日本語でしゃべり、トニーは英語でしゃべると通じた。

「そうか！実はだな。こちらの女の子に召喚されたんだ、名前をティファ。以前カミヤから『俺、この世界へ行きますんで』って言われたゼロ魔の本の知識からこのタルブへと目指したんだ。アルビオンは、内戦で物騒だから海に着水して船で来たんだ。この新型のアイアンマンスーツを装着して村に襲いかかってくる盗賊を追い払ったんだが、盗賊や傭兵から剥いだ金でここまできたんだ」

「そうですか！俺、この世界と地球世界を行き来できる能力を持っていますんで一緒に帰りましょう。ここからトニーさんの実家まで送っていきますね」

「そりゃありがたい。ついでにこの子たちも送るから！俺の家で養うよ。ハッピーやペッパー、ジムなども心配していることだし、会社のみんなも心配していることだから帰らなくてはいけない。しかし、この子たちを放ってはいけない。みんな俺が養うから」

「はじめまして、ティファと申します」

「よろしく！俺はカミヤだ」

「ついでにカミヤ、あの日本軍のゼロ戦をゲットしたからそれも送ることはできるかい？」

「ちょっと待ってくれ！トニーさん！それは日本国のモノだ！あれは日本民族の宝だ！」

「じゃあカミヤに譲るよ！武雄老の墓の文字、日本語を読んだら所有権もらってしまって、あれは日本人である君が日本の国王へ返却するべきだな！遺言で墓の文字を読めた者にゼロ戦を譲ることと御国の陛下に返してほしいとまであった」

「じゃあ俺もお墓参りに行こう」

カミヤは、シエスタに武雄老の墓まで案内させて文字を読み、地球から持ってきた御線香を備えた。

「カミヤさんそれっていい匂いですね」

「我が国の伝統のお参りに道具さ」

ゼロ戦を靖国神社の大村益次郎像前に転移させた。これによって新聞・ニュースでは大騒ぎになっていた。第二次大戦中のニューギニア戦線で行方不明になって戦死扱いされていた佐々木武雄氏の機体が綺麗なままで戻ってきたのだから。そのゼロ戦は、遊就館に展示されることとなる。

トニーとティファ、そのほかの子供たちは、アメリカのトニーの実家まで転移させた。トニーが戻ってきたことで色々と話題となり、アメリカ上層部は何としてでもハルケギニアを含む惑星世界へ進出しようと躍起になるのであった。

ティファの耳は目立つが地球では、帽子をはずして他の子供たちも同様に勉学に励んでいた。

ＮＳＡ内部のの先端コンタクト文明諜報組織は、アーサー王伝説、シャンバラ伝説、主にケルト文明など異世界伝説に関する文献調べや最新科学的にゲート製造の開発等に乗り出すこととなる。

ハルケギニアの文字は、古代ヨーロッパ地方の古代ラテン語に類似している。トニーはティファ、カミヤはシエスタからハルケギニアの文字をそれぞれ数十分で取得した。

シエスタの親父には、ハルケギニアで生成した金貨1万エスキューを結納した。ルイズに召喚されたときにオスマンから分捕った１００エスキューは、タダで何の見返りもなしに使い魔にしようとする魂旦がオスマンらにあるので思い知らせてやろうと分捕ったままでだ。この後シエスタら一族は、地球世界のカミヤの実家へと訪問することとなった。こうしてカミヤとシエスタは、婚約が認められることとなった。

王都トリスタニア　武器屋

ここは裏通りの武器屋である。そこから意気揚々で貴族と従者が出て来た。

「まいど！」

「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・・・・・・・

・・・・・

・・

「なんか知らんけどここ1ヶ月に剣を買う貴族が多くなってきた。ま！奴らに渡す剣なんかお飾りで実戦に向かない武器だ、実戦用の業物なんか売ってたまるか！これからは貴族からたくさんボッタ食ってやる！なあ、デル公！」

「・・・デル公！しゃべってくれない！貴族がダメ武器を高く買ってくれるのはいいが、1ヶ月もしゃべってくれない・・・！貴族らが魔法使えないのと関係しているのか？・・・今日もたくさん売れたから店じまいだ！魅惑の妖精亭へ行こう！」

平民の間にも薄々魔法が消滅したことを感じているが、平民と貴族との殺傷事件はまだ起こっていない。3週間前にハルケギニア中に制定された法律で、無礼討ちは禁止となり貴族は各国家の上層部が魔法復活を為すことを期待しているのであった。それ故に魔法が使えないメイジは、内心ビクビクしながら平民の復讐を恐れていた。

平民にしていたら貴族メイジへの組織だった反乱は今のところは起きていなかった。

ハルケギニアでは、非メイジの平民は必ず剣を修練している。アニメや小説では、平民が剣・槍を修練するところがないが、実際には幼少のころから修練しているのであった。

成人した貴族が剣や槍を持ち修練しても魔法抜きで、平民と一騎打ちしても瞬殺されることは自明の理である。

ましてやお飾りの専用の武器では死が待っている。

魔法ができない貴族たち！！！地球へ転移放置されるクソ共！！

カミヤとシエスタの婚約から一週間経った魔法学院では、午前は授業。午後からは貴族の教師・生徒総動員して魔法復活に関する書物を調べていたが、何も成果がなかった。

学院の非メイジ平民達は、内心ではザマあみろと喝采を上げている。しかしマチルダことフーケは、貴族に交じって図書室で資料を漁っていた。

（破壊の杖どころじゃないよ。もうおさらばしようか）

魔法学院のルイズを疎ましく思っている生徒は、魔法消滅の原因がルイズが召喚した使い魔の仕業だと実家あてに手紙で報告した。これが貴族間、王宮に伝わりヴァリエール公爵は釈明の為に奔走していた。

しかしながらヴァリエール公爵には、たくさんの政敵がいる。これらの中にもルイズの使い魔のせいにしてヴァリエール家を追い落とそうとする輩もいた。しかし、魔法消滅の中でヴァリエール公爵家に手を出そうとする精神力を持つ貴族は皆無である。貴族たちは今はあらゆる文献を調べ、魔法復活の手段を探していた。

政敵共はヴァリエール家どころではなくなて来ていた。貴族が魔法が使えないと平民の間には噂となり反乱をおこす気配がしているのだ！

ハルケギニア各国の貴族も武器屋から剣・槍を購入していたのだが、すべての武器屋も貴族には装飾用で実戦の役にたたない武器を高額

で売りつけていた。おまけに平民は、幼少のころから剣術等を隠れて修練しているので魔法抜きの闘いとなれば平民の圧倒的な勝利は間違いない。

エルフサイドでもネフテスでは、精霊魔法が使えない状態となり急いで文献を調べていた。あらゆる幻獣も魔力が消滅し、人間の迫害から逃れるため人跡未踏の山奥へ姿を消した。

カミヤは、魔法学院のルイズの部屋に転移した。ルイズは、授業中か図書館にいるみたいだ。

ルイズの部屋をはじめとするキュルケ・タバサ・モンモラシーなどの女生徒の部屋に盗撮機を仕掛けていた。そのメモリチップの回収にハルケギニアへ転移していた。

カミヤは、平民の清掃員に化けて女子風呂の脱衣場・浴室室にも仕掛けている。

地球・日本で盗撮などを行うと犯罪だが、ハルケギニアでは法律どころか盗撮機自体知らないし遅れた文明だからしたい放題やりたい放題だ。

しかも「ゼロの使い魔」の実写版の生裸・生着替えだからプレミアが付いている。

盗撮したデータを編集しネットでばらまいて大金を稼いでいた。地球において素ではパクられる為に第三者のダミーを設置して当局の追及をかわしていた。

カミヤは、魔法学院の厨房を訪ねた。

「マルトーさんお久しぶりです」

「おう！我らの拳、久しぶりだな！メシ食っていけ」

「ごちになります」

マルトーの話によるとカミヤの仕業によって貴族が魔法を使えないと学院中の噂になっている。料理にケチをつける生徒はいないが、大量に食べ残しが多くなっていた。貴族は、魔法消滅のショックで食が細くなっているみたいだ。

カミヤを召喚したルイズを監督したコルベールは、監督不行き届きで貴族爵と財産を没収された話を聞いた。また。マルトーにはカミヤが異世界を自由に行き来できる能力があり、地球の歴史・政治体制のことなどを話した。

（今頃、どうしているんだろうか！これもダングルテールの報いだね。禿は見つけたらトニーさんに預かってもらおう！）

飯を食い終わりマルトーに礼を言う時に「魅惑の妖精亭」のスカロンを訪ねていけと言われた。マルトーも近々、魔法学院の料理長をやめる方針だそうだ。

「じゃ魔法学院をやめたら何処へいくんですか？」

「流れ料理人をするつもりさ！」

「じゃあ、俺の異世界へ来てください。そこでマルトーの親父さんが想像を絶する料理に合わせて上げますんで！」

カミヤは、リュックから精製した金貨１００００００枚を渡した。

「こんなに！」

「実は、これも能力の一つです。一万エスキュー入っていますんで。向こうの生活資金です取っておいてください」

「そうか！じゃ一ヶ月後に迎えに来てくれ」

厨房を出たカミヤは、広場へと歩いていった。カミヤにイチャモン着けてくる魔法学院の生徒を地球へと転移放置するためだ！

歩いていくと幾人かの生徒を見かけた、その中からデブと生意気そうな二人組が声をかけて来た。

「おい！そこの平民！魔法を使えるようにしろ！」

「なんとかしろよ！」

カミヤは、二人を地球のいつもカミヤが鍛錬している運動公園へと転移させた。辺りは、カミヤと二人組の貴族しかいない。

「ここは？」

「ようこそ絶望の世界へ！」

カミヤの戦闘力は「史上最強の弟子」の上位マスタークラスなので二人を一瞬にボこった。

「どうした！それで終わりかよ？」

「貴様、貴族にこんなことしてタダですむと・・・・・・！！！」

カミヤは生意気そうな奴の腕をへし折り、大腿骨をローキックで折った。

「ぎゃあああああああああああああ！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！！」

「へ？貴族が何だって？おめえいい声で鳴くじゃねえか！ここも魔法が使えない絶望の世界だ！おまけにお前らの言葉や文字、権力も使えない世界だ！」

さらにカミヤは、太っちょの貴族の膝を関節蹴りでへし折った。

「があああああああああああぎゃああああああああああああ！！！！！！」

公園には、ボロボロになった二人の姿だけが倒れていた。

魔法学院に転移したカミヤは、フーケを探していた。すると、ルイズ、キュルケ、タバサと鉢合わせした。

「あんた！！！！ご主人様をほっといて何処へ行っていたのよ。あ

んたのせいで私たちがどれだけな目に遭っていると思うのよ！」

「そうよ！魔法を返してよ」

「あなた何者？魔法が消えてお母様が正気に戻ったけど魔法が使えないと不便」

「やかましいわい！おどりゃー！！！！！！！」

3人とも日本の秋葉原へ転移させた。

「ここで朽ちはてろ、ボケ共！！！！」

「ここは？・・・・・・・・・・・・・！」

「何よここは・・・・！」

マチルダ、転移ゲット！！！

ピンク・レッド・ブルーの3馬鹿トリオを秋葉原へと転移放置したカミヤは、魔法学院の学院長室の椅子に座っていた。

「オスマンとマチ姉さんが帰ってくるまで待つか！」

2人とも他の教師や生徒に交じって図書館で”魔法復活”の手段を探していた。

夕方になりオスマンとマチルダは、溜まっている書類を整理しようと図書館から戻ってきた。

「お主は、ミス・ヴァリエールの使い魔君じゃないのか・・・・」

「俺は、使い魔になったつもりはない！能力のベクトル操作でルーンを返したのさ！それにこの世界の魔法を消滅させたんでな」

「で？なぜここにいるんじゃ」

「ふ！それはだな・・・・！」

カミヤは、オスマンをつかみ日本のある場所へと一緒に転移した。

「ここは？どこじゃ・・・・？」

「じゃあ！さっさとくたばりな爺い！」

まわりを振り返ると誰もいないし草むらだらけだった。

グルルルルルルル・・・・・！

学院長室へ舞い戻ったカミヤは、マチルダにフーケの件、ティファの事や孤児のことを知っていると言った。

「あの子や他の子どもたちは無事なんだろうね！」

「ああ！俺の知り合いのトニーさんが面倒みているんだぜ、異世界で！転移」

アメリカ　トニー・スターク邸

夕食をトニー、カミヤ、ティファ、マチルダ、そのほかの子供たちがテーブルを囲んでいた。

「カミヤ、ミス・サウスゴータの転移御苦労さま」

「こんなの軽いっすよ。どうだティファにみんな、英語は習得できた？」

「なんとか覚えれたわ！でもこんな世界なんて夢みたい・・・！」

「勉強嫌！」

「でもこんな世界があるなんて！ところでさ！使い魔さん、あのセクハラ爺はどこへ消えたんだい？」

「俺の名前は、カミヤだ。姓が萩生　名　は神也。カミヤって呼んでくれ！爺は、どっかに置き去りにした。マチ姉さんこの世界は、自由・平等を建前とする社会だ！あんたにもこの世界で生活してもらう。面倒は、トニーさんが全面支援する！そうでしょ！トニーさん」

「そう言うことだ！マチルダ、よろしくな！まずは、君たちには勉強をしてもらう。英語から数学やあらゆる分野を習得してもらうから」

「え～！勉強！！！勉強嫌だ～！遊びたいよ！」

「トム、勉強して賢くならないとダメ人間になってしまうんだぞ」

「トムって言ったか！俺の国の言葉には『勉強嫌いは、死を呼び込む』と諺があるんだ！死なない為にあらゆることを学び知って勉強をするんだ。じゃないと陰で『あいつ馬鹿だ！』と後ろ指を指されることになるんだ。トリステインのアンリエッタ王女みたいなクソ頭悪い人間になってはいかん！」

「わかった！勉強するよ」

魔法学院にあるチルダの荷物は、またカミヤと一緒に取りに行った。

3日後の日本にて

『本日未明、〇士サファリパーク内の敷地にて身元不明の９０歳位の男性の遺体を発見。警察の調べによりますと遺体は損傷しており死因はライオンに襲われたと思われ、警察は身元の確認を急いでいること。

次のニュースです。荒川近くで身元不明の２人の少女と１人の成人女性が全裸で死体となって発見。死因は３人とも絞殺であり、警察は身元確認と犯人捜索に全力を挙げている模様』

王宮消滅！！！トリスティインの最後！

シエスタを誘って東京でデート。

六本木のカフェで2人はくつろいでいた。

「どお！貴族のいない身分の格差がない世界は？」

「素晴らしいです。カミヤさんが学院へ来てから貴族はおとなしくなりました。ほんとうに魔法が使えないのでしょうか？」

「ああ！ほんとうだとも！未来永劫使えないよ。もうすぐ革命が起きるんじゃないかな」

「でも村の人々も貴族たちが魔法使えないことを噂程度で話していますけど、村に来る商人の話だとあちこちで貴族に対する襲撃がおきています」

「なるほど！でも組織だった一揆なんかは、起きていないね」

「王宮からの御達しで税率4割以下にすることと、無礼討ち禁止がありますからそんなに不満はありません」

「クソ共は、魔法を使って人殺しをする奴らだから魔法使えない状態だと無礼討ちできないし、魔法使えないのがばれてフルぼっこされるからさ！」

「村人にも他の村人から一揆起こそうと誘いがありますが、父なんかは反対しています」

「そお！今度さトリスタニアへ行ってみないか？都市の人の声を聞きたいね」

「でも東京みたいに綺麗じゃないし、汚い所ですよ」

「マルトーさんから『魅惑の妖精亭』のスカロン氏を訪ねてみろって話があったんだ」

「私たち一族の組織『コウガ』ですね。スカロン叔父さんは、その組織のリーダーですから」

「マジで・・・！この日本の佐々木家の実家も滋賀県の甲賀市だから忍者だね」

「タルブでは、曾お爺ちゃんが伝えたアサシンの技がこの国の忍者から来ていることには驚きました」

「忍者の情報力を使って天下取ったのが、この江戸、東京を造った徳川家康なのさ」

シエスタの実家と交流することになったカミヤの実家萩生家は、佐々木武雄さんの実家が滋賀県甲賀市にある事を突き止めて武雄老の分骨を日本の佐々木家へと届けた。

日本の佐々木家も代々甲賀流忍者の家系だということが解った。武雄老は、平民結社を造っているんだなと・・・！

高校最後の夏休みに入り、カミヤはシエスタと一緒に王都トリスタニアの「魅惑の妖精亭」へとやってきた。

カミヤは、アメリカの陸軍基地の一般人解放フェスティバルで倉庫へと忍び込み、Ｍ１１２６ストライカーＩＣＶをタルブまで転移させ、シエスタを乗せて王都まで向かった。途中で盗賊が立ちふさがったのだが全員機関銃で殺害した。シエスタには、睡眠薬入りのジュースで寝てもらったのだが・・・・。

この世界は、盗賊多いよ。

装甲車を王都入口まで置いて、魅惑の妖精亭へと向かった。やっぱり裏通りの道には、糞尿が落ちているっていうか捨ててているね。マジで貴族ぶっ殺したい。

中へ2人とも入ると、オカマさんやたくさんの女の子に客がいた。

「いらっしゃい！シエスタお久しぶり。そちらの方は？」

「私の婚約者のカミヤさんです」

カミヤは、マルトーの親父から紹介された事を告げ手紙を渡し、二人は奥の方へと案内された。そこで組織があらゆるハルケギニア各国の秘密結社やエルフ・亜人の被差別階級の結社、東方の結社のネットワークの構築管理組織だと聞いた。

今の状況では、たしかに魔法が消えてそれに代わる技術が用いたけ

れど、ハルケギニアの平民から革命機運が起こっていることまで話し合った。

平民の不満は、それほどひどくはない状態。税率４割・無礼討ち禁止がハルケギニア各国で制定され、今年は豊作だということ。

この豊作は、カミヤの魔法消滅のエナジー放出の際に植物に影響を与えたことによるらしい。

（まだ、なにか革命のきっかけは魔法消滅だけではインパクトがない。よし・・・）

数日後、王都に転移したカミヤは平民街と王宮・貴族街の間にある橋へと赴いた。

そして一方さんのベクトル操作で空気を圧縮！

カミヤの頭上に巨大なプラズマ太陽が発生！！！！！！！！！！

大きさは、王宮と貴族街を含めた大きさかな！

「ほい！」

王宮や貴族街が溶ける溶ける！！！ドラゴンボールＺのアニメでフリーザがトランクスに巨大デスボールを投げた要領で王宮めがけて

ぶつけたら貴族街約８割が消滅。王宮が消滅した。

ものの数分で片付いた。

この能力、やばいぜ！

これによって一ヶ月後、トリスタニアは隣のゲルマニアの侵攻を受けて併合されることとなる。

コルベール、日本へ留学！！！はしゃぐんじゃねえＹＯ！ハゲ！

王都トリスティインの王宮と貴族街の大半を消滅したカミヤは、一旦地球へ転移してまた、タルブへ転移した。

同じ世界内で転移することは、不可能だ！

タルブのシエスタの実家で家族たちに日本への移住を勧めていると、コルベールが訪問してきた。村人に『竜の羽衣』ゼロ戦の場所と持ち主について尋ねて案内されたシエスタの実家でコルベールはカミヤと再会した。

「君は、ミス・ヴァリエールの使い魔君では、ないか！よくも魔法をこの世界から消してくれたね！」

「俺は、使い魔になった覚えがないぜ！ちったー頭使え！俺は、人間であって奴隷じゃない！姓が萩生、名は神也、カミヤって呼べや！ぶっ殺すぞ！魔法が平民に何をした！」

その答えに含まれた殺気は、尋常ではなかった。

「どうだ？魔法が使えない貴族でない気分は？これもダングルテールであなたが大勢殺した幽霊の怨念ですよ！はははははｈ・・・・・！！！！」

「カミヤ君と言ったね・・・・・・君はたくさんの人を殺したね？」

やっぱり解る人にはわかるんだね。

「は？失礼な！何を言っているんですか？寝言は、寝て言ってください。俺は、とても平和な国日本、ニッポン人！けがれを知らないビューティフルな人間です！（嘘です！）」

するとシエスタが、

「カミヤさんと曾お爺ちゃんの国、日本は素晴らしい国です。ミスタ・コルベール、今まで魔法が何をしてくれたんですか？貴族が平民に何をしてくれたんですか？魔法がない、貴族もいない世界、国、それがカミヤさんと曾お祖父さんの国日本です」

シエスタの思いに同感したシエスタの親父がコルベールに言った。

「そうだ！そうだ！何しに来た？」

コルベールは、『竜の羽衣』を見せていただきたいと実家を訪ねた旨を伝えた。

「残念！あの『竜の羽衣』ゼロ戦なら俺が自分の国へ返還したよ！ってことでここには、もうないぜ！」

「そんな・・・・！」

「コルベール！これからどうするんだ？地位も魔法もないこれからの人生は、終わりか！これもダングルテールの怨念じゃ！あんたにこれだけは、言っておく！このトリステインが弱体化したのも貴族が平民に圧政を敷いたからだ！その貴族を育てたのが、あんたら魔

法学院の教師だ！あんたの平民の生活を向上させる為の発明はすばらしい！しかし！

あんたに教師の器は、ない！

と断言したい。俺は、ルイズに召喚されて奴隷になる運命を覆そうと”カミ”にベクトル操作と世界の魔法消滅法等の能力を伝授された。コルベール！俺の世界！俺の国を見せてやる。魔法がない科学の世界が如何に素晴らしいか！平等な世界が如何に”神の世界”かを見せてやる！来い！」

「カミヤさんまた私も連れて行ってください」

するとシエスタの弟たちが

「カミヤ兄ちゃん、俺も！」「俺も！」「私も！」

「ヨッシャ！！！今日は、全員！地球の○々苑に繰り出すぞ！俺のおごりだ！！！！！！！」

金は、幼いころからハルケギニアで転移して金貨を生成して地球で換金していたので総資産が３０００億ある。大半がスイス銀行に口座がある。

地球へ転移したカミヤ、シエスタ一家、コルベールは六本木の焼き肉店へ食べに行った。コルベールなんかマジではしゃぎすぎ！周り

の目がきついぜ！

「みんなお腹いっぱいになったか！！！！」

「「「「「は～い！」」」」」

「カミヤ君、いつもすまない！」

「いやいや！それより義父さん、この地球世界へ家族全員移住してください。我が国の税率は、一割ですよ！一割！ハルケギニアなんかよくて４割、悪くて８割でしょう！あの世界は悪魔が棲む世界ですよ！この世界の面倒は、私が保証しますよ。これがこの世界のお金です」

一千万入っている紙袋をシエスタの親父に渡した。

「これは？」

「この世界の国のお金です。ハルケギニアに換算しますと５０００～一万エスキューですね」

「５０００！！！結納で百万エスキュー君から貰ったのに！！」

「ちょっとしたおこずかいですよ！我が国の税率は、一割です。どうですか！この街、この建物を！クソ貴族なんかいない世界です！そしておいしい料理がたくさんあります！みんな、また考えといてくれ」

シエスタ達家族をタルブの家へと転移させたカミヤは、コルベールを連れて自分の家へと向かっていった。地下鉄、電車に乗る時もキョロキョロして大はしゃぎ！「田舎者の禿の外人と付き添いの少年」って周りから見られた。

ハズカシ～！！！！！

「ただいま！」（疲れた！！！！）

カミヤは、両親にコルベールを紹介した。コルベールは、日本語がしゃべれないし日本の文字が掛けない。コルベールの言葉をカミヤが通訳した。

シエスタの家族もここへ移住したいのだけれども言葉や文字が通じないから二の足を踏んでいる。今は、彼らは暇さえあれば日本語と文字を勉強している。テキストは、母親が造った。

カミヤの母親は、地球世界数十ヶ国語を習得している才女で言語学の大学を卒業している。カミヤの親父とは、仕事上そこで知り合った。そして、現代にいたる・・・。

カミヤが習得したハルケギニアの文字と言葉を1週間でマスターした。ハルケギニアの言語は、古代ラテン語・古代北欧語の混在型らしい。

カミヤは、コルベールを自室へ招き、色々と話し合った。

「たしかに俺は、人をたくさん殺した。わかる人にはわかるんだね

！！！」

「何故君は、そんなにも平気なのかね！」

「盗賊なんか”ゴミ”ですね！あの世界には、殺し放題だし！この世界、日本じゃ人一人殺せば大騒ぎになって”悪人”のレッテルを張られますんで！でもどうです、この世界は？」

「・・・命の価値が重い世界・・・か・・・」

「俺がハルケギニアで下種共を殺害したのは、奴らを殺さない限り多くの罪のない人たちが犠牲になるからですよ！でもここじゃ貴族なんかいないから平和そのモノですね」

「君は、私がダングルテールで行ってきたことを知っているのかね？」

本棚に22巻の完結まである「ゼロの使い魔」の単行本を見せた。

「本来はこの本の中身通り、平賀　才人っていう屁垂れ少年が召喚される予定だったんだが、俺が”カミ”から与えられた能力で原作を破壊したんだ。本来は、この本の中身通りだ！俺は、アンチなんでね！ルイズに召喚されたときにネタをばらしたのもこの本の通りなんだ」

「ハルケギニアで魔法はもう復活しないのか？」

「無理だね！俺は復活させる術を知らないし、する気はしない。あんた自殺する気だったんだろ！」

「もう私には、何も取り柄がない！何も残っていない！」

「この本のサイトの気持ちや平民の気持ちがわかるんだな！俺は、貴族であるあんたを軽蔑していたが、研究者としてのあんたを尊敬している。俺は、研究者としてのコルベールを援助してみたい！あんたがどこまで伸びるかを掛けたい！」

コルベールは、日本の萩生家で４ヶ月居候しながら日本の言語・法律等をを学び、大検に受かるのであった。

そこから萩生家の援助で都内のアパートを借りて、工業関係専門の大学へと進学するのである。

２週間後にタルブのシエスタ一家は、滋賀県の佐々木家の隣地区へと引っ越しするのであった。

ペンタゴン　ＮＳＡ幹部会

「イギリスのアーサー王伝説など主にヨーロッパの方面のファンタジー童話の世界が実在するとは！」

「過去の様々な怪人・異人は、ハルケギニアに関係している」

「我が国は、あと数年で二重の赤字で崩壊するぞ！今は景気がいいけどそのうちに破綻するのは時間の問題だ！それを防ぐには、”侵略”しかない。しかもハルケギニアは想像を絶する資源が眠ってい

る。スターク社のトニーの報告通り魔法が消滅していると占領が楽だ」

「異世界間ゲートの研究は、１９４３年のフィアデルフィア実験、１９５０年代のモントークプロジェクトを手掛けた研究の副産物だ！今までは、魔術師の転移魔法で異世界を行き来していたが、１９５０年に偶然にもバミューダーで実験をしているとハルケギニアに通じたのはいいが、装置が未発達の為に暴走して「魔のバミューダー海域」と呼ばれるようになった。でも装置が故障して１９９０年代には収まった」

「そのあとカナダのジョン・ハチソンがハチソン効果をロスアラモス研究所に検証依頼をして「黄金律φ」を見つけ出して異世界間ゲート装置や有人ＵＦＯ戦闘機の開発に成功したのは、うれしい」

「よし！上層部に魔法がない世界への植民進軍を提案するか！ブッシュ大統領ならイラク・アフガニスタンの他にも異世界へも進軍するさ！」

アメリカのＮＳＡ、ＣＩＡ等やシークレットガバメントは、ハルケギニアを新たな市場・戦場にしようとするのであった。

ついに起きた平民一揆！！！裏での地球3大超大国の植民計画！！！

カミヤによる魔法消滅から2カ月経ったハルケギニア。カミヤによって王宮と貴族街が潰されたトリステインは、ゲルマニアの侵攻によって併合されている。

マルトーら平民の使用人たちは、魔法学院がゲルマニア軍によって包囲される中でカミヤがアメリカのトニー邸宅まで転移させた。

あのクソ魔法学院の貴族生徒は、人質として拘束されたらしい。

アルビオンは、トリステインと友好・婚姻関係であるが、内乱による国力低下で援軍が遅れず静観することとなった。

ガリアでは、シャルル派の反乱が起きたが、まっていたとばかりに反乱を察知したジョゼフ派によってタバサの母親共々粛清した。

シエスタの親戚であるトリスタニアの魅惑の妖精亭のスカロン親子も転移させて中野に日本版「魅惑の妖精亭」を構えさせた。スカロンは、まじめに武雄老から小さい時に日本語習得しているから読み書き計算には、問題ない。ハルケギニア平民秘密結社のボスは頭がよくないとダメ。

しかしスカロンのオカマスタイルは、トリステイン当局の目を欺くのと女房の死が原因でオカマが地になっている。日本では、おねえスタイルにファッションチェンジした。

召喚時の魔法消滅なんて原作破壊していたカミヤは、助けたいゼロ

魔のキャラを地球へと避難転移させた。どの人間ももうハルケギニアへは戻りたくないと言っていた。
シエスタの実家はあれだけ地球へ転移するのが不安であったが、地球へ生活基盤を移し半年経った所でハルケギニアへ戻ることを全員拒否した。

貴族がいない地球の豊かな生活に慣れれば、ハルケギニアの生活なんて地獄そのモノ。

ハルケギニアではついに大規模な反乱が起きた。

ハルケギニアを含む惑星世界の国々は、１９５０年代からアメリカ、ロシア（旧ソ連）をはじめとする国々から多数の工作員がいたのだ。彼らによって扇動された反乱はハルケギニア全土を覆った。

古くは、シュメール文明のころから地球のフリーメーソンなどの秘密結社内にいる能力者を通して異世界間を行き来できた。

２０世紀に入り二コラ・テスラ等のマッド科学者が各国の政府指導の元、異世界間を行き来できるゲートの開発に乗り出すこととなる。
。

様々な装置の実験を繰り返し、アメリカは今日に至り安定した装置が完成した。アメリカの内部へ諜報させていたロシア・中国・イギリスも装置の設計図を入手して装置を完成させた。

地球とハルケギニアでは、地球側の圧勝に終わるけどその為の占領・植民の際にメイジのゲリラ化を恐れていたからだ。
おまけにハルケギニアの他にも様々な魔法が存在し、一種の魔法惑星世界を形成していた。カミヤの魔法消滅儀式のせいでハルケギニアを含む惑星世界の住人は呪術・魔法等がが使えないことが分かると念入りに諜報員を送り様々な工作を開始した。

ハルケギニアを含めた惑星世界へ多数の諜報員を送り込んでいるアメリカ、ロシア、中国は、軍隊を送ることを決定した。

メキシコ湾のバミューダー海域は、「聖地」と繋がっておりそこからアメリカはゲート装置を使い航空空母戦闘団を投入しエルフのサハラを手に入れた。そしてガリア・ロマリアへ進軍。

ロシアでは、バルト海からゲルマニアの沿岸部に多数の陸上部隊を転移・配置しゲルマニアの首都へ平民の一揆軍と合流して進軍。

中国では、チベットからゲート装置で「東方」の国へ大量の人民解放軍を投入。

アメリカ・ロシア・中国は、裏で申し合わせたようにぶつかることなく惑星世界の各地を占領していった。アメリカに占領された地域は幸せだったが、ロシア・中国に占領された地域は「地獄」そのモノだった。

完　　地球勢力が介入したハルケギニア世界！！！

異世界惑星においてアメリカ・ロシア・中国の向かうところ敵なし。３国共、初めから一切の降伏勧告交渉せず近代機動戦にて占領。ハルケギニア各地の平民一揆軍は、アメリカ・ロシア軍の指揮下にて武装解除。

ガリアのジョゼフ王はアメリカに全面降伏してガリア全土をアメリカへ委託させた。ジョゼフは、アメリカへと移住して市民権を獲得した。

１０年間の行政指導の後、ガリア共和国を設立。

ロマリアにおいてもアメリカに占領された。多少は聖堂騎士団の抵抗があったが近代兵器の前には蟷螂の斧である。教皇エイジス３２世は、ジュリオ共々爆撃で死亡した。

後にロマリア連邦を設立。

ゲルマニアでは、ロシアが全土を掌握、城に籠り抵抗する皇帝他貴族は処刑。ゲルマニア共和国を設立。

ロバ・アル・カリイエでも中国は、王侯貴族を処刑して傀儡政権を樹立。

ブリミル教は、路傍の乞食に変貌した。

ロシア　クレムリン

部屋にいる男は、部下へ色々と報告を受けた。

「では、はやいところ進駐をスムーズに進めろ。それと今後の略奪・強盗等の軍規違反はその場で射殺しろ」

「了解しました」

・・・・・・・
・・・・・・
・・・・・

「フフフフ！とうとう我が曾祖父ラスプーチンの復讐が完遂した！ゲルマニアの皇帝や貴族は、残らず処刑。しかもハルケギニアは、レアメタルの宝庫！

・・・・・・・

「了解しました」

「都市に流れている出稼ぎの農民や乞食を使ってまでも異世界を我が民で覆い潰せ」

・・・・・・・・・
・・・・・・・
・・・・
・

「いつかは、日本みたいにバブル崩壊したら内乱になる！その前に戦争で領土を広げるしかない。幸いにも異世界は侵略し放題だ！」

地球3大超大国は、ハルケギニアを含む惑星世界の開拓・侵略に乗り出した。中でもアメリカの異世界大陸の領有化が一番。優れた空母機動艦隊を編成し転移させ無政府無種族状態の土地をすばやく領有化宣言していた。

アメリカの財政赤字は、新領土・ハルケギニア以外の新大陸の土地の所有権を債権化し、国債と交換、償却により消滅した。

カミヤは高校卒業後、シエスタを娶り父の会社へ就職した。それによりハルケギニアへ支店開拓を出して妻のシエスタと共に移り住むのであった。

カミヤによる魔法消滅は、ハルケギニア等を含めた魔法・呪術世界に新たな侵略と革命をもたらし、当初はロシア・中国による「悲劇」もあり近代軍による中世軍の殲滅等あったが異世界惑星世界の住民は、地球から持ち込まれた技術・思想で地球と遜色ない国になっていくこととなる。

ハルケギニアの貴族・ブリミル教の神官は平民によるハルケギニア大乱の際、大量に殺害され地球軍の侵略には抵抗できなかった。反乱に加わった平民は。先導された地球側の工作員の説得と恫喝により地球超大国の支配を甘んじて受けた。

これによって地球から大量の移民が異世界新世界へと流れていくこととなる。

完　　地球勢力が介入したハルケギニア世界！！！（後書き）

リアルだとアメリカ等の超大国は侵略するでしょう。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8793t/

ハルケギニア魔法消滅！　アンチ一筋

2011年6月25日12時05分発行